

## 審判規則委員会としてのコロナウィルス感染予防対策

1. 審判員の大会参加について

- 1) 大会主催者より示された感染予防対策を遵守し参加する。
  - ・大会審判責任者は、審判員に対し「JVA 感染防止策チェックリスト」等を活用する。  
HP：日本バレーボール協会>トピックス>国内大会>大会再開のためのガイドライン
  - ・大会期間中、体調の異変がある場合は必ず大会主催者に報告をする。
  - ・生徒役員として参加する場合、学校や地域の状況を考慮し、保護者の承諾を得る。
- 2) 試合中以外はマスクを着用、手洗い・アルコール等による手指の消毒を励行する。
  - ・他の参加者との距離（できるだけ2m以上）を保ち、大きな声や対面での会話はしない。
  - ・更衣・休憩・待機スペースなどは換気を心掛け、時間差をつけて利用するなど工夫する。

2. 競技中の対応

## 【主副審】

- ① 試合前後に握手は行わない（その場で一礼）。トスは選手との距離を保ち、短時間で行う。
- ② 生徒役員や他の役員とも十分距離（できるだけ2m以上）を保ち、大きな声や対面での会話はしない。
- ③ 主催者の意向で、電子ホイッスル等で試合を進めてもよい。使用前後は消毒を行う。
- ④ 笛を使用する場合は、会場や環境に合わせた音の大きさ、吹笛を短くするように心掛ける（ラリーを止める吹笛は強く）。その際、試合の前後及び試合中（タイムアウト・セット間）に、除菌シート等を活用し洗浄・消毒等を行う。

## 【スコアラー・アシスタントスコアラー】

- ① 会話をすることがあるので、マスクを着用する。
- ② 物品（筆記用具）の共用はしない。サイン採取時は、各自が用意したボールペンを使用する。

## 【ラインジャッジ】

- ① 会話をすることがないが体を動かすので、熱中症予防の観点からマスク着用は必要としないが、熱中症のリスクが極めて低い場合や、本人の不安軽減を考慮する場合は、マスクを着用しても構わない。
- ② フラッグは、試合前後に消毒を行う。

## 【コートオフィシャル】

- ① 会話をすることがないが体を動かすので、熱中症予防の観点からマスク着用は必要としないが、熱中症のリスクが極めて低い場合や、本人の不安軽減を考慮する場合は、マスクを着用しても構わない。
- ② 試合中は使用したボールやタオルに触れるため、衛生用手袋（使い捨て）を着用する。

3. その他

- 1) ベンチや記録席などの競技場のレイアウトは、密な環境を避けるため変更をしてもよい。  
ex. ウォームアップエリアを広げる、ベンチを2列にする、・・・ 等
- 2) タオルや水筒（ボトル）は共用をしない。マイタオルとワイピング用タオルは必ず区別する。
- 3) 生徒役員の人数に余裕がある場合は、1セット毎に交代するなどの配慮をする。
- 4) 感染対策に必要な物品は、大会主催者並びに各チームで用意をする。
- 5) ネット際での相手に向かっての発声、ハイタッチ、大きな声での応援（観客も含む）等については、各チームへ予め共通の目安を伝えておく。（大会主催者や競技委員と協議しながら）
- 6) 研修会の参加においても予防対策を万全に行う。不参加による不利益が生じないよう配慮する。